

中小企業動向 トピックス

中小企業の業況は5期連続でマイナス幅が拡大し 先行きについては慎重な見方がいっそう強まる

第198回「中小企業動向調査」結果概要

〔2008年4～6月期実績、2008年7～9月期および 同年10～12月期見通し〕

当公庫では、お取引先のご協力を得て、2008年6月に第198回中小企業動向調査を実施しました（調査対象13,448社、有効回答企業数6,392社、回答率47.5%）。

中小企業の景況感を表す業況判断D.I.は、5期連続でマイナス幅が拡大しました。先行きについてもマイナスが続き、慎重な見方がいっそう強まっています。また、売上げD.I.も3期連続でマイナスとなりました。

従業員D.I.はプラスを維持したものの、プラス幅は3期連続で縮小しました。また、設備投資実施企業割合は、5期連続で30%を下回っています。

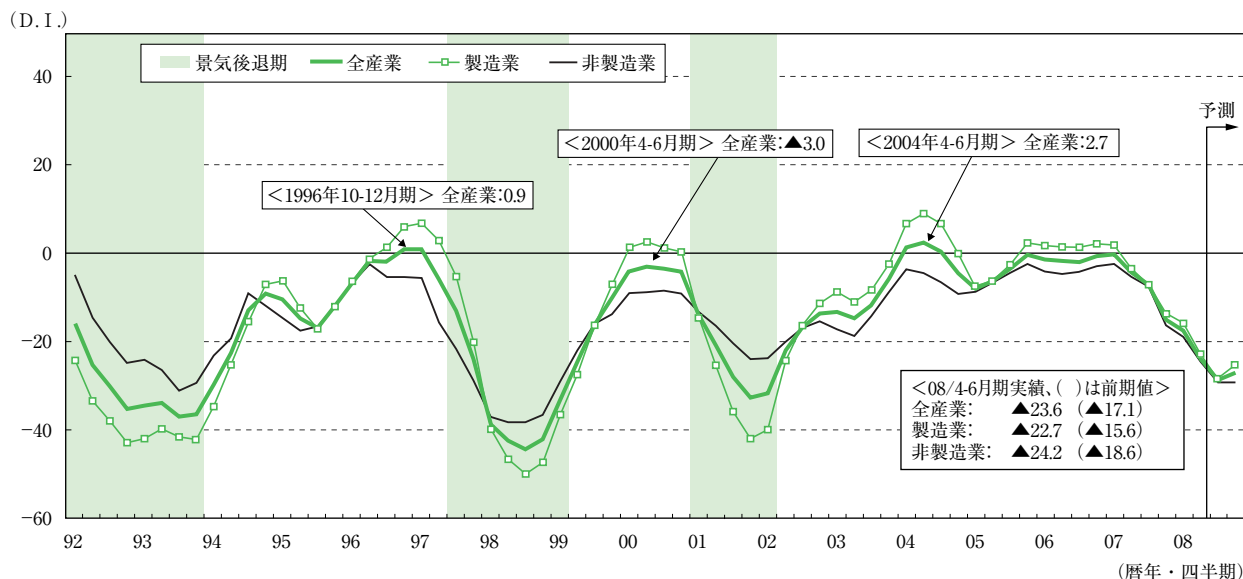
業況判断D.I.は5期連続でマイナス幅拡大

中小企業の2008年4～6月期実績の業況判断D.I.（全産業）は、▲23.6と前期実績を6.5ポイント下回り、5期連続でマイナス幅が拡大しました。

産業別にみると、製造業では▲22.7、非製造業では▲24.2となっており、3期連続で2桁を超えるマイナスが続いています。

先行きについても、製造業が▲28.3、非製造業が▲29.2とさらにマイナス幅が拡大しており、慎重な見方が強まっています（図表1）。

〔図表1〕業況判断D.I.の推移（「好転」－「悪化」企業割合、前年同期比、季節調整値）

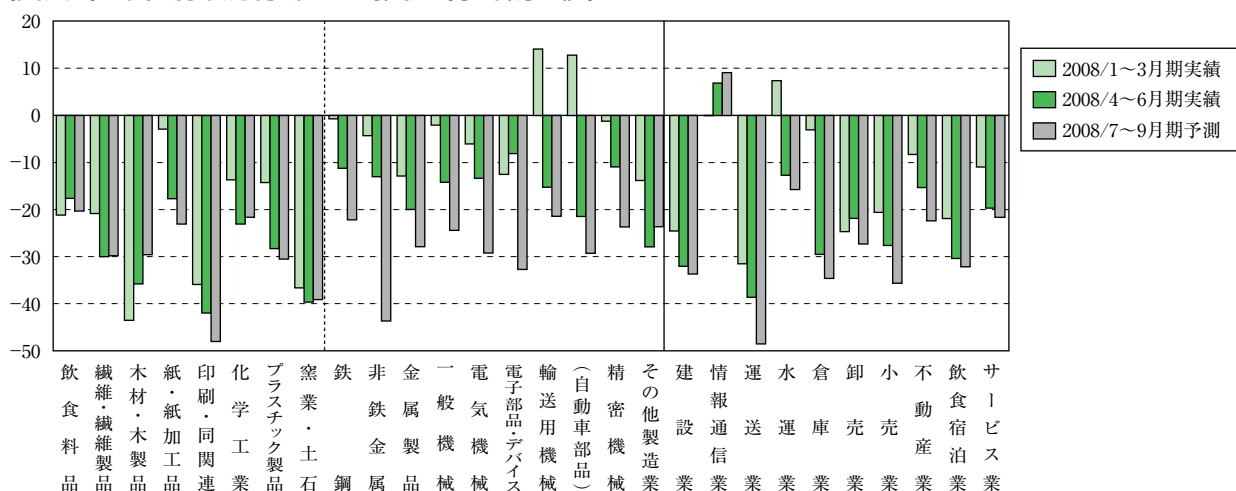


製造業では全ての業種でマイナスに

業況判断D.I.を業種別にみると、製造業では、輸送用機械でマイナスに転じ、全ての業種でマイナスとなっています。多くの業種でマイナス幅が拡大する中で、印刷・同関連、窯業・土石、木材・木製品などでは大幅なマイナスが続いています。一方、非製造業では、水運業がマイナスに転じ、情報通信業以外の全業種でマイナスとなっています。

原材料価格や燃料価格の高騰の影響などから製造業、非製造業ともに業況判断は悪化しており、先行きについても多くの業種でマイナスの推移が続く見通しとなっています。情報通信業以外の全ての業種でマイナスが見込まれ、非鉄金属、電子部品・デバイスなどでマイナス幅が大幅に拡大し、印刷・同関連、運送業などで大幅なマイナスが続く見込みです（図表2）。

（図表2）業種別業況判断D.I.の推移（季節調整値）



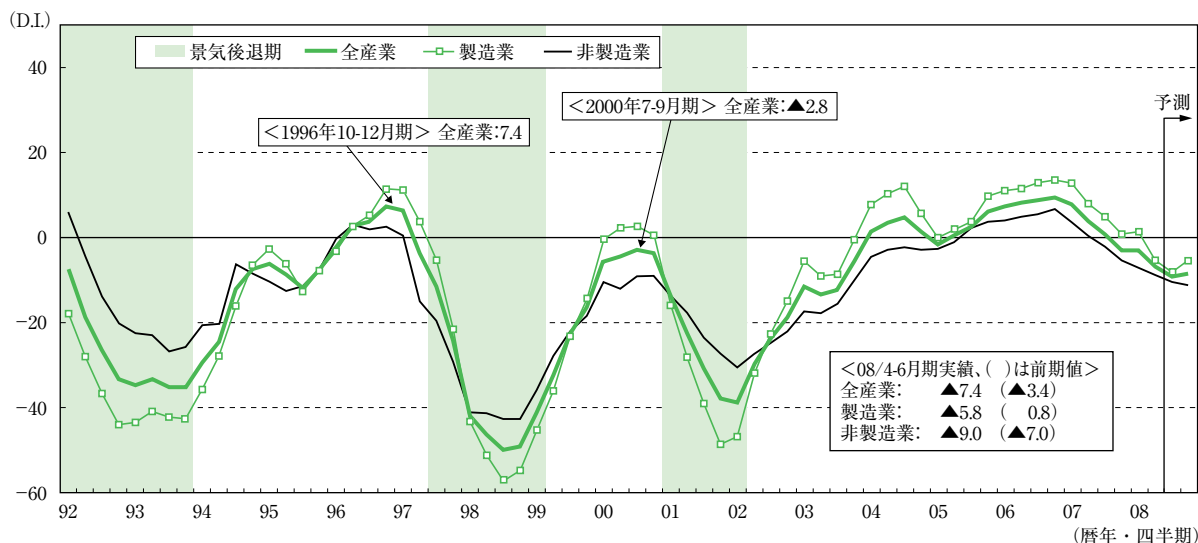
売上げD.I.は3期連続でマイナス

売上げD.I.（全産業）は▲7.4となり、3期連続でマイナスとなりました。

製造業では鉄鋼、精密機械、紙・紙加工品などで高水準のプラスが続いていますが、電子部品・デバイス、電気機械、プラスチック製品などがマイナスに転じました。非製造業では、水運業、情報通信業がプラスを維持したものの、その他全ての業種でマイナスが続いています。

先行きは、製造業、非製造業ともにややマイナス幅が拡大する見通しです（図表3）。

（図表3）売上げD.I.の推移（「増加」－「減少」企業割合、前年同期比、季節調整値）



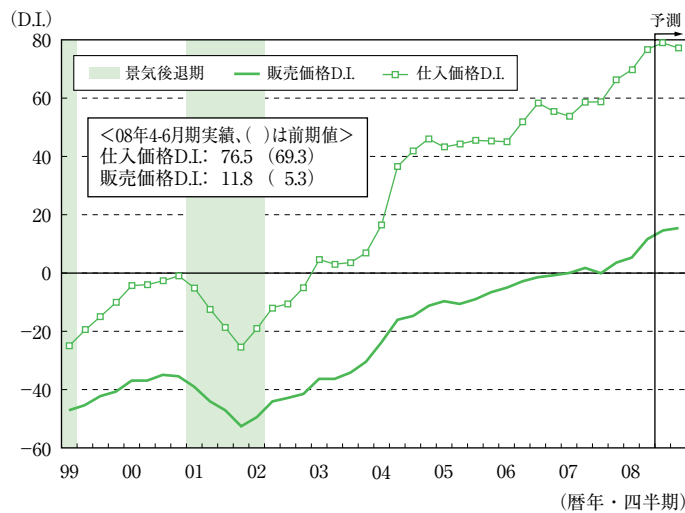
販売価格D.I.は5期連続でプラス、仕入価格D.I.は高水準が続く

販売価格D.I.（全産業）は、5期連続でプラスとなり、プラス幅は3期連続で拡大しています。

仕入価格D.I.（全産業）はプラス幅が5期連続で拡大し、非常に高い水準での推移が続いています。

先行きについては、販売価格D.I.はプラス幅が拡大し、仕入価格D.I.は引き続き高い水準が続く見込みとなっています（図表4）。

（図表4）価格D.I.（全産業）の推移
（「上昇」-「低下」企業割合、前年同期比、原数値）



販売価格D.I.を業種別に見ると、製造業では、鉄鋼、紙・紙加工品などで高いプラスとなっている一方、電子部品・デバイスや印刷・同関連などではマイナスでの推移が続いています。

非製造業では、卸売業、小売業などで高いプラスを維持している一方、建設業では2桁のマイナスが続いています。

仕入価格D.I.を業種別に見ると、製造業が80.2、非製造業が69.7となっており、素材価格の高止まりを反映し、鉄鋼、紙・紙加工品、プラスチック製品などで、90近傍の高水準となっています。

純益率D.I.は5期連続でマイナス幅が拡大

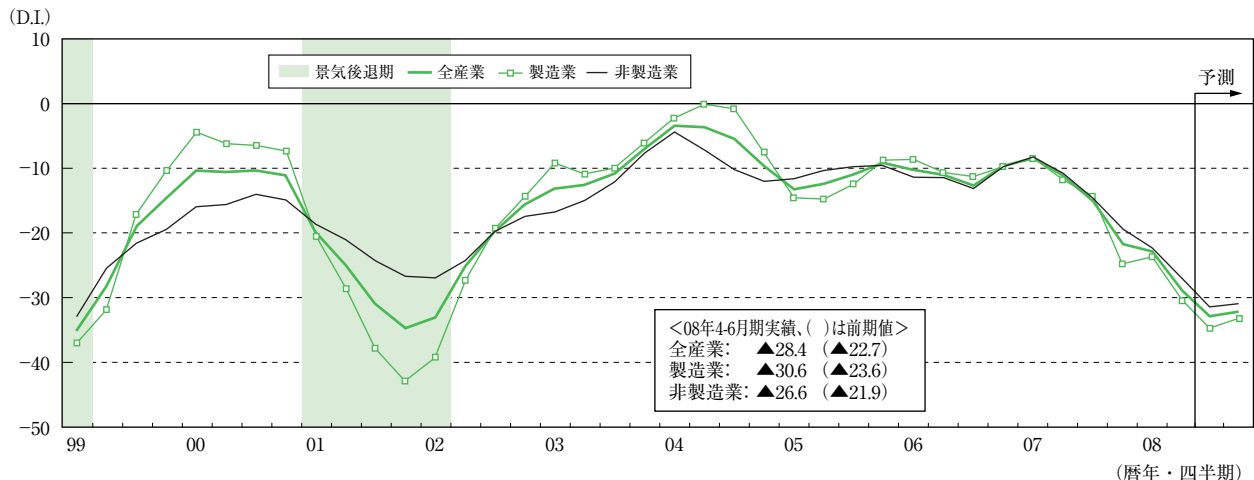
純益率D.I.（全産業）は▲28.4となり、利益の低下を見込む企業が増加しています。5期連続でマイナス幅が拡大しました（図表5）。

製造業では、輸送用機械でマイナスに転じ、全ての業種でマイナスとなりました。精密機械、化学工業などでマイナス幅が拡大したほか、印刷・同関連、窯業・土石では低い水準での推移が続いています。

非製造業では、情報通信業でプラスに転じたものの、その他全ての業種でマイナスとなっています。特に、水運業や倉庫業でマイナス幅が拡大し、運送業、建設業でも大幅なマイナスが続いています。

先行きについても、製造業、非製造業ともにさらにマイナス幅が拡大すると見込んでいます。

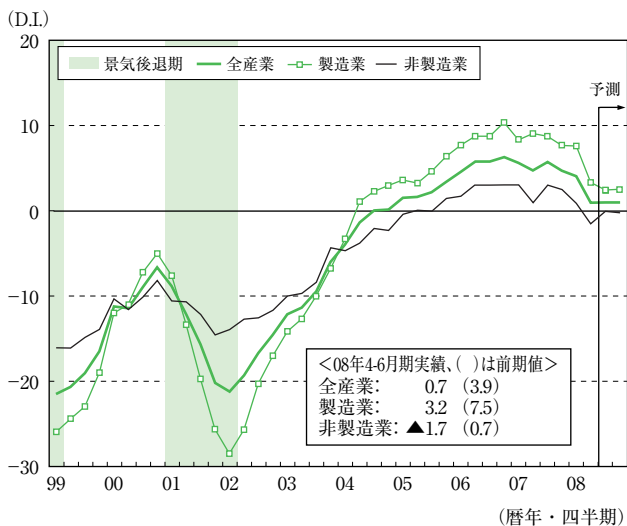
（図表5）純益率D.I.の推移（「上昇」-「低下」企業割合、前年同期比、季節調整値）



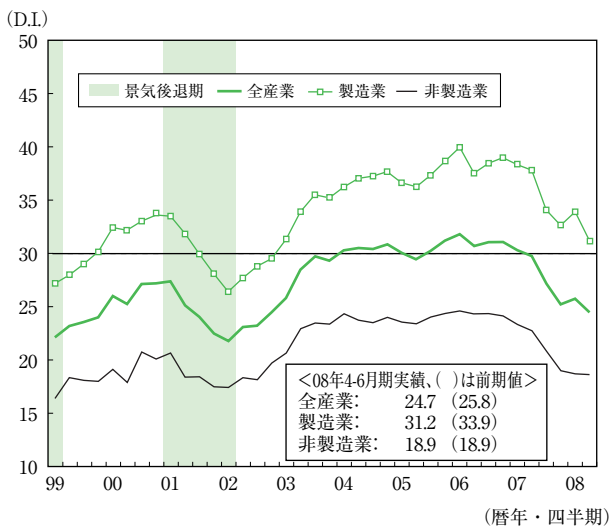
雇用はプラス幅が縮小、設備投資実施企業割合は5期連続で30%割れ

従業員D.I. (全産業) は、プラスを維持しましたが、プラス幅は3期連続で縮小しました(図表6)。また、設備投資実施企業割合(全産業)を見ると、5期連続で30%を下回っています。業種別に見てみますと、製造業では、輸送用機械、非鉄金属などで高い水準が続いている一方、木材・木製品や繊維・繊維製品などで弱い動きとなっています(図表7)。非製造業では、運送業で30%を上回っていますが、建設業、不動産業などで低い水準が続いています。

(図表6) 従業員D.I.の推移
(「増加」-「減少」企業割合、前年同期比、季節調整値)

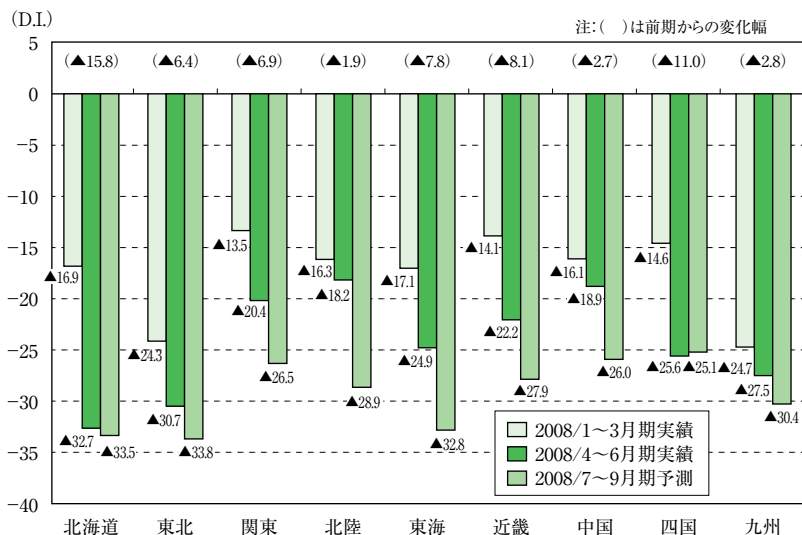


(図表7) 設備投資実施企業割合の推移
(実施企業割合、%、季節調整値)



4期連続で全ての地域がマイナス

(図表8) 地域別業況判断D.I.の推移 (季節調整値)



業況判断D.I.を地域別にみると、全ての地域でマイナス幅が拡大し、4期連続でマイナスとなっています。

先行きについては、四国を除く全ての地域でマイナス幅が拡大し、2桁のマイナスが続く見通しとなっています(図表8)。

(楠本 敏博・桑本 香梨)

「中小企業動向トピックス」に関するご意見・ご要望等ございましたら、本支店窓口までお問い合わせください。

発行：中小企業金融公庫 総合研究所 ホームページ <http://www.jasme.go.jp/>